

対談

【A】 ……遠隔医療の技術については、例えば今、手術のほうは実験的に大学なんかでは行われているんですけども、遠隔による診断で、慢性疾患のようなものは地方では結構行われていると聞いたことがあるんですが、ただ、一般に言いますと、遠隔医療は規制がかかってしまっていてなかなかできない現状がありまして、でも、私は遠隔医療を進めること自体は基本的にはよいことではないかと、そういうふうに思っているんです。

【B】 なるほど。そうですね。私も基本的に遠隔医療はもっとポジティブに取り組んでいいんじゃないかと思っているんです。医療での対面原則というものも気持ちとしてはわかるんですけども、日本には医師がほとんどいない地域が結構たくさんありまして、そのような金科玉条的な対面原則は、国民をかえって危険にさらしているのではないかと、そんな気もするんです。

【A】 ですよ。

【B】 おそらく、そんな対面原則を言ってしまうと医療費がどんどんカットされてしまうんじゃないかと警戒されちゃいますし、医療費をそんなに増やせない現状において、国民の命を守るという観点から考えると、やはり遠隔医療はきちんとやっていくべきだと思うんです。例えばD t o Dがよいとか、D t o P、D t o N、ナース・プラクティショナーをどうするかとか、各論はいろいろあるとは思いますが。

【A】 ありますね。

【B】 ただ、看護系大学とか大学院をあれだけつくったんですから、ナース・プラクティショナーを養成して、医師の指示、遠隔医療の下でナース・プラクティショナーがある程度の医療行為をするというのはいいんじゃないかと思っているんです。

【A】 なるほど。

— 了 —